

令和 6 年 6 月 28 日現在

機関番号：32619

研究種目：国際共同研究加速基金（国際共同研究強化(B)）

研究期間：2019～2023

課題番号：19KK0114

研究課題名（和文）アフリカ型都市建築保存手法の開発 都市における互助的ネットワークを使った試み

研究課題名（英文）Development of Architectural Preservation Method in Africa: Focusing on Urban Mutual Network

研究代表者

岡崎 瑠美（Okazaki, Rumi）

芝浦工業大学・建築学部・准教授

研究者番号：90780792

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 14,000,000円

研究成果の概要（和文）：1. アディスアベバ：建築遺産マップの作成及びアディスアベバにおいて建築遺産が数多く残るアルメニア地区とPiazzaを対象に実測及びインタビュー調査を実施した。ジュビリー宮殿内の日本茶室についても調査を行った。2. セコタ：オンラインと現地での聞き取り調査を通じて、都市遺産マップを作成し、セコタに現存する円形住居のデータベースを作成した。3. メケレ：メケレとその近郊にある建築遺産建造物の聞き取り調査や資料作成を行った。一連の調査やワークショップを通じて建築遺産のドキュメンテーションを行うフレームワークやキャパシティビルディングを行う指針を得ることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

2024年3月にアディスアベバの最も重要な歴史地区であるピアッサが再開発のため取り壊された。トップダウンの政策により瞬く間に歴史地区が解体され、街の記憶やコミュニティが一掃されてしまう状況は今後も回避できないのか。本研究調査で収集されたデータは専門家や遺産保護関係のNGO等に共有し、在エチオピア各国大使館経由でエチオピア政府関係者に渡される予定である。今後も継続的に建築遺産のドキュメンテーションを実施するためには建築遺産の認知やキャパシティビルディング、ファンドレージングが欠かせない。ボトムアップの意識改革も重要であるが、より大きな影響を及ぼすトップ層の意識改革が求められる。

研究成果の概要（英文）：1. Addis Ababa: a map of architectural heritage was prepared, and architectural documentation and interviews were conducted in the Armenian Quarter and Piazza, where much of the architectural heritage remains. A survey was also conducted on the Japanese Tea House in the Jubilee Palace. 2. Sekota: an urban heritage map and a database of existing round houses were created through online and on-site interviews. 3. Mekelle: involved interviews and documentation of architectural heritage buildings in Mekele and its suburbs. Through a series of surveys and workshops, a framework for the documentation of architectural heritage and guidelines for capacity building were developed.

研究分野：建築史

キーワード：アフリカ エチオピア アディスアベバ メケレ セコタ 歴史地区 建築遺産 遺産保護

1. 研究開始当初の背景

近年アフリカ各国で人口増加や経済成長により都市化が進み、スラムクリアランスや大規模開発に伴い歴史的街区が急速に失われている。しかしアフリカにおける都市や建築に関する研究は世界の他地域と比較して圧倒的に少なく、今後アフリカの都市性を尊重した都市計画を行う上でそれらの研究は急務である。2016年の国連人間居住会議 (Habitat III) で採択された「ニュー・アーバン・アジェンダ」の中でも「文化遺産を持続的に活用することにコミットする」ことが宣言されたが、本研究もそのような社会情勢に沿ってアフリカの都市や建築の持続的利活用の方法を開発する。

研究対象地はエチオピアの首都アディスアベバである。人口400万人を数えるアフリカ有数の大都市である。19世紀後半に首都建設と近代化が同時に行われた結果、大量の外国人が職工や技能労働者として流入し外国人街区が生まれ、各国の居住様式や在来様式の融合が進み、多彩な居住文化を持つ「近代都市建築」が生まれた。近年のアディスアベバでは、スラムクリアランスを伴う大規模な再開発により歴史的建造物の取り壊しと建て替えが進むが、維持保存や文化資源化を試みる政府、国際機関による活動は僅かであり、長期的展望に立った保存や再生の戦略的研究も限定的である。

2. 研究の目的

研究では非正規市街地を内包するアディスアベバの歴史街区に対して互助的ネットワークや組織力を援用し、さらに日本が培ってきた文化財保存やリビングヘリテージの手法を用いながら、都市の歴史に深く関与する街区やまちなみ、建築物の維持保存、再生を可能とする手法を開発する。現在のアディスアベバでは、巨大資本の投入が社会の様態を空間的に劇的に変えつつある。伝統的文化や民族文化、無形文化よりもインフラストラクチャーの開発が優先される潮流は簡単に覆る気配はない。本研究は、こうした諸文化を現在の脈絡で評価し、維持保存に繋げ、そのための人材を育成するものであり、それにより、アフリカの文化的多様性の維持に一定の貢献をすることに本研究の意義がある。

3. 研究の方法

研究調査は主に以下5つの方法で実施した。(1) 文献、史資料の調査、(2) 建築遺産のマッピング：書籍やデータベースに掲載されている建築遺産に加え、フィールドワークにより抽出しプロット、(3) 建築遺産の写真撮影及び実測：データ収集は学生ワークショップとして実施し、キャパシティビルディングも兼ねる、(4) 所有者、住民、建築遺産関連組織へのインタビュー、(5) エチオピア国内における地方都市の動向調査。

4. 研究成果

4-1. アディスアベバ (Addis Ababa)

アディスアベバは再開発やインフラ整備のプロジェクトにより歴史地区が急激に失われている。建築のみならず時間をかけて形成されてきた良好なコミュニティも追い出され、治安の悪化が懸念されている。本研究ではアディスアベバにおける建築遺産のデータベースを更新し、建築遺産のマッピングを行った。またアディスアベバにおいて数多くの建築遺産が現存するアルメニア地区を対象に歴史地区内の建築遺産及びコミュニティに関する調査を実施した。

4-1-1. アディスアベバ建築遺産マップ [図1]

以下2つの書籍と1つのデータベースに掲載されている建築遺産を全て地図にプロットし、

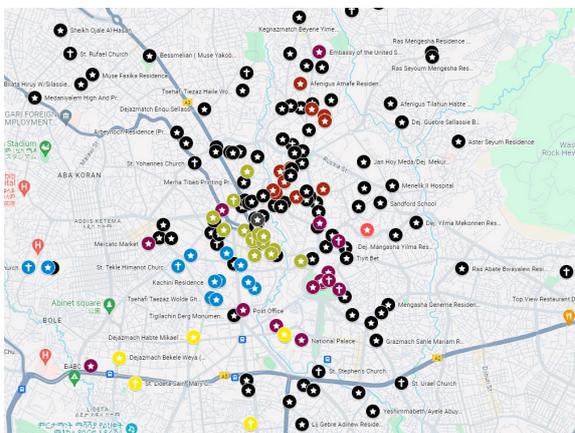


図1. Addis Ababa heritage map

図2. アルメニア地区における建築遺産の一例。Ethiopian National Association for the Blinds, Former House of Agop Bagdasarian (Mousse Yacob)



図 3. アディスアベバ・アルメニア地区内の建築遺産

フィールドワークで新たに抽出されたものを加えアディスアベバ市内の建築遺産マップを google map 上に作成した。共有可能なリンクを作成し、リンクをアディスアベバ大学 EiABC の教員や学生を中心に共有し、今後の調査研究に活用できるようにした。

- Milena Batistoni, Gian Paolo Chiari, Old Tracks in the New Flower - A Historical Guide to Addis Ababa, Arada Books 2004
- Addis Ababa Architectural Heritage Database, GTZ, 2005-2009
- Fasil Giorghis, Denis Gérard, The City and Its Architectural Heritage Addis Ababa 1886-1941, Shama Books

4-1-2. アルメニア地区における建築遺産調査 [図 2, 3]

2004年に白石が実施したアルメニア地区の調査結果（白石卓央，帝政期エチオピアにおける住宅建築に関する研究アジスアベバのアルメニア人居住区をケーススタディとして，慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科修士論文，2005年度）をベースとしてアルメニア地区の建築及びコミュニティに関する調査を実施した。

一部の研究成果は P. Nieder の書籍で紹介した。(Piet Nieder ed., The Addis Ababa House: A Typological Analysis of Urban Heritage in Ethiopia 1886-1936, DOM Publisherrrs, 2024)

4-2. セクタ (Sekota)

4-2-1. セクタ歴史地区マップの作成 [図 4, 5]

Kassa Gebrehiwot 駐日エチオピア大使の協力を得て 2020 年よりセクタの建築遺産に関する調査を開始した。2020 年 2 月にセクタを訪問したがその後、2020-23 年は COVID19 により現地訪問が難しく、調査研究はオンライン作業を通じて行った。駐日エチオピア大使館、現地 NGO の Wag Development Association 及び Wollo University、イタリア・Ca' Foscari University に在籍するセクタ出身の研究者と合同でオンラインミーティングを実施し、セクタの歴史や建築遺産に関してヒアリングを行った。インタビューから得られたセクタの歴史地区の名称や街の主要なランドマークを地図にプロットし、セクタ歴史地区マップを作成した。続いてセクタの伝統建築である円形住居のデータベースを作成を行った。Wag Development Association がセクタに現存する全 51 棟の円形住居の写真を撮影し、オンラインを通じて情報共有がされた。一連の調査結果は“Mapping Urban Heritages: The Case of Sekota, Ethiopia”と題した発表を通じて 2022 年 11 月 5 日にアディスアベバ大学 EiABC で共有された。

4-3. メケレ (Mekelle)

4-3-1. 内戦後のフィールドワーク及びヒアリング調査

2024年1-2月に以下12の建築遺産において写真撮影や実測、ヒアリング調査を実施した。またTigray Bureau of Culture and Tourism, Cultural Association of Tigray, Mekelle Universityを訪問し、建築遺産の保存と活用に関する問題点や可能性について議論した。建築遺産の特定やドキュメンテーション、人材育成、資金不足が最も深刻な課題となっている。戦争で被害を受けた地域はコミュニティのメンタルケアが課題となっており、建築遺産の活用によりコミュニティの結束力を高めることができる可能性がある。

1. Former residence of Raesi Araya Sillassie Dimtsu, Feleg Daero
2. Selassie Cheleqot Church
3. Wukro Chirkos Church [図6, 7]
4. Kahsay Castle, Agulae
5. Kidane Mihret Church, Agulae
6. Al Nejashi Mosque, New Alnajashi Mosque
7. St. Mikael Church, Quien
8. Former residence of Rise Debri Gebremariam, Quien
9. Haleqa Assefa Tela Residence, Aynalem
10. Dejat Abrha Castle, Mekelle
11. Old Municipality, Mekelle
12. Kidane Mihret Church, Mekelle

まとめ

2024年3月にアディスアベバの最も重要な歴史地区であるピアッサが再開発のため取り壊された。ピアッサには42棟の登録建築遺産があったとされるが、1カ月以内に36棟が解体された。その様子は海外メディアでも取り上げられ、エチオピア国内外で開発のあり方や歴史地区の保存について議論を呼んでいる。トップダウンの政策により瞬く間に歴史地区が解体され、街の記憶やコミュニティが一掃されてしまう状況は今後も回避できないのか。本研究調査で収集されたデータは専門家や遺産保護関係のNGO等に共有し、在エチオピア各国大使館経由でエチオピア政府関係者に渡される予定である。今後も継続的に建築遺産のドキュメンテーションを実施するためには建築遺産の認知やキャパシティビルディング、ファンドレージングが欠かせない。ボトムアップの意識改革も重要であるが、より大きな影響を及ぼすトップ層の意識改革が求められる。



図4. Sekota heritage map

図5. セコタに現存する円形住居 (photo: Wag Development Association)

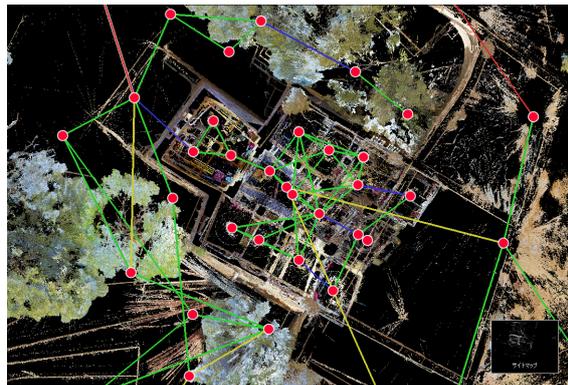


図6. Wukro Chirkos Church 外観の点群データ

図7. Wukro Chirkos Church 点群データで作成した平面図

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計28件（うち招待講演 3件 / うち国際学会 8件）

1. 発表者名 Rumi Okazaki, Alula Tesfay Asfha, Tadesse Girmay, Selam Gebrekiristo, Semhal Tadesse, Mulugeta Fisseha
2. 発表標題 Architectural Heritage of Quien Village Case of Former Residence of Riese Debrí Gebremariam
3. 学会等名 第33回日本ナイル・エチオピア学会学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 生井沢健斗, 久富颯介, 杉山慧, 朝野太仁, 清水郁郎, 岡崎瑠美, Tadesse Girmay, Fasil Giorghis
2. 発表標題 エチオピアの都市住宅における住みこなし アディスアベバ・アルメニア地区を対象として
3. 学会等名 第33回日本ナイル・エチオピア学会学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 久富颯介, 杉山慧, 生井沢健斗, 朝野太仁, 清水郁郎, 岡崎瑠美, タデッセ・ギルメイ, ファシル・ギオルギス
2. 発表標題 ア ディス アベバ 建築遺産への デジタル計測技術の適応可能性
3. 学会等名 第33回日本ナイル・エチオピア学会学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Satoi Sugiyama, Sosuke Hisatomi, Kento Namaizawa, Taito Asano, Rumi Okazaki, Tadesse Girmay, Keita Aoshima, Nobuhiro Shimizu
2. 発表標題 Urban Redevelopment and Architectural Heritage in Piazza, Addis Ababa: Case of Former Residence of Minas Kerbekian
3. 学会等名 第33回日本ナイル・エチオピア学会学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Tadesse Girmay, Rumi Okazaki, Sosuke Hisatomi, Satoï Sugiyama, Kento Namaizawa, Taito Asano, Keita Aoshima, Nobuhiro Shimizu
2. 発表標題 Urban Redevelopment and Architectural Heritage in Piazza, Addis Ababa: An Overview of What is Happening in the Vicinity
3. 学会等名 第33回日本ナイル・エチオピア学会学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Alula Tesfay Asfha, Rumi Okazaki, Tadesse Girmay, Selam Gebrekiristo, Semhal Tadesse, Mulugeta Fisseha
2. 発表標題 Leveraging 3D Documentation Technologies for Preserving Vernacular Architecture in Tigray, Ethiopia
3. 学会等名 第33回日本ナイル・エチオピア学会学術大会
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Rumi Okazaki
2. 発表標題 State of Architectural Urban Heritage in Addis Ababa, Ethiopia
3. 学会等名 Towards Sustainable Rural-Urban Development of Human Settlement, Tongji University (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Alula Tesfay Asfha, Rumi Okazaki, Tadesse Girmay
2. 発表標題 Synergizing Archival Research and 3D Field Documentation for Preserving Endangered Vernacular Architecture in Tigray
3. 学会等名 ELIAS-SCOLMA Joint meeting (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Rumi Okazaki, Tadesse Girmay, Ikuro Shimizu
2. 発表標題 Documenting the Architectural Heritage of Armenian Sefer, Addis Ababa
3. 学会等名 AFRICA24, Nairobi, Kenya (国際学会)
4. 発表年 2024年

1. 発表者名 Rumi Okazaki, Ikuro Shimizu, Tadesse Girmay, Fasil Giorghis, Eisuke Shoji, Kentaro Nishiyama, Kei Misumi, Taiga Takehara
2. 発表標題 Tracing the Original Urbanscape of Addis Ababa: Case of Armenian Sefer
3. 学会等名 第32回日本ナイル・エチオピア学会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 岡崎瑠美, 清水郁郎, 庄司栄介, 西山健太郎, 三角桂
2. 発表標題 エチオピア歴史地区における基礎研究 その13, アジスアベバ・アルメニア地区における建築遺産の保存と活用
3. 学会等名 2023年度日本建築学会大会(近畿)学術講演会
4. 発表年 2023年

1. 発表者名 Rumi Okazaki
2. 発表標題 Envisioning World Futures with African Universities
3. 学会等名 第2回日本・アフリカ大学教育交流ミーティング(招待講演)
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Rumi Okazaki, Alula Tesfay Asfha, Ikuro Shimizu, Keita Aoshima, Nobuhiro Shimizu, Melsew Tefera, Amsalu Woldie Yalew
2. 発表標題 Mapping Urban Heritages: The Case of Sekota, Ethiopia
3. 学会等名 第31回日本ナイル・エチオピア学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Alula Tesfay Asfha, Rumi Okazaki, Nobuhiro Shimizu, Keita Aoshima, Riichi Miyake
2. 発表標題 Architectural Heritage Conservation and Higher Education in Ethiopia
3. 学会等名 第31回日本ナイル・エチオピア学会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 Rumi Okazaki, Alula Tesfay Asfha, Nobuhiro Shimizu
2. 発表標題 Is Conservation Possible? Addis Ababa ' s Heritage Amid Cataclysmic Urban Change
3. 学会等名 日本アフリカ学会第59回学術大会
4. 発表年 2022年

1. 発表者名 岡崎瑠美
2. 発表標題 Ethiopian Historical Cities: Architectural Typologies and Urban Formation
3. 学会等名 日本建築学会・アフリカ都市・建築 [若手奨励] 特別研究委員会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 清水信宏
2. 発表標題 Building History from the Local Perspective
3. 学会等名 日本建築学会・アフリカ都市・建築 [若手奨励] 特別研究委員会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 青島啓太
2. 発表標題 Ethiopian Architecture
3. 学会等名 日本建築学会・アフリカ都市・建築 [若手奨励] 特別研究委員会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Rumi Okazaki
2. 発表標題 Heritage Risk in Addis Ababa
3. 学会等名 Local Building Types: The Addis Ababa House, Technische Universitaet Berlin (招待講演)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Rumi Okazaki
2. 発表標題 Historical cities of Ethiopia: Harar, Gondar and Mekelle
3. 学会等名 INTBAU (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 眞田菴星, 中川海人, 岡崎瑠美, 清水郁郎
2. 発表標題 在留エチオピア人の文化的行為の再現に関する研究：東京都葛飾区を対象として
3. 学会等名 日本ナイル・エチオピア学会第30回学術大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西山健太郎, 眞田菴星, 中川海人, 岡崎瑠美, 清水郁郎
2. 発表標題 聖ミカエル東京エチオピア正教会の設立と運営
3. 学会等名 日本ナイル・エチオピア学会第30回学術大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Rumi Okazaki, Riichi Miyake
2. 発表標題 New Building Program During the Egyptian Rule in Harar, Ethiopia: Reconstruction of Rauf Pasha Mansion
3. 学会等名 日本ナイル・エチオピア学会第30回学術大会（国際学会）
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 岡崎瑠美, 三宅理一
2. 発表標題 20世紀初頭のアジスアベバにおける公使館地区の形成と公使館建築 エチオピアにおける外交施設の研究 その1
3. 学会等名 2021年度日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 西山健太郎, 上野山波粹, 上野美紀, 岡崎瑠美, 青島啓太, 清水 郁郎, 渡辺洋子
2. 発表標題 聖ミカエル東京エチオピア正教会における教会コミュニティの形成に関する研究
3. 学会等名 2021年度日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 眞田菴星, 清水郁郎, 岡崎瑠美, 青島啓太
2. 発表標題 在留エチオピア人の異文化適応に関する研究 その1 -生活財の調査による文化的行為の再現性の考察-
3. 学会等名 2021年度日本建築学会大会学術講演会
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Rumi Okazaki
2. 発表標題 Inclusive Development of Historical Cities in Ethiopia
3. 学会等名 Building Peace through Heritage, World Forum to Change through Dialogue (国際学会)
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 坪崎 伊吹, 渡辺 洋子, 矢野 航大, 青島 啓太, 岡崎 瑠美, 清水 郁郎
2. 発表標題 アディスアベバ大統領府内日本庭園茶室の現状
3. 学会等名 建築学会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 Piet Nieder ed.	4. 発行年 2024年
2. 出版社 DOM Publishers	5. 総ページ数 271
3. 書名 The Addis Ababa House: A Typological Analysis of Urban Heritage in Ethiopia 1886-1936	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	伊藤 洋子 (渡辺洋子) (Ito Yoko) (40327755)	追手門学院大学・上方文化美学センター・客員研究員 (34415)	
研究分担者	清水 郁郎 (Shimizu Ikuro) (70424918)	芝浦工業大学・建築学部・教授 (32619)	
研究分担者	青島 啓太 (Aoshima Keita) (80714534)	追手門学院大学・基盤教育機構・准教授 (34415)	
研究分担者	清水 信宏 (Shimizu Nobuhiro) (60892304)	東京大学・大学院工学系研究科(工学部)・特別研究員 (12601)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	テシファイ・アシファ アルラ (Tefay Asfha Alula)	筑波大学・人間総合科学研究科世界遺産専攻・ポスドク研究員 (12102)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会 Living. Urban. Heritage.	開催年 2024年～2024年
------------------------------------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関			
エチオピア	Addis Ababa University	Mekelle University		
イタリア	Ca' Foscari University of Venice			
エチオピア	Wag Development Association	Wollo University		
エチオピア	Addis Ababa University	Mekelle University		
ドイツ	Technische Universitaet Berlin			